

目的

中央教育審議会における議論(※1)や「地方創生2.0」に係る検討(※2)も踏まえ、地方大学の振興に向けた方向性や具体策を検討すべく、武部文部科学副大臣の下にタスクフォースを設置。

(※1) 令和7年2月21日に「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～」を答申。(※2) 令和7年6月13日に基本構想を閣議決定。

基本的な考え方

- ✓ 地方創生を強く志向する地方大学は、以下を通じ、それぞれの地域を強みを生かした、地域に求められる「**特色ある大学**」となる。
 - ・大学の有するミッションを踏まえつつ、**強みや特色**を生かし、**人材育成・産業創出などの観点で地方創生に貢献**する。
 - ・**学生・学修者ファーストの視点を重視**し、地域で多様な学びが受けられる環境を提供する。
 - ・**地域社会の在りたい未来からのバックキャスト**で取り組むため、設置者を問わず、**大学全体で、地域のニーズや課題を徹底的に追究し、学問分野を融合して大学のリソースを最大限活用**する。
- ✓ 国は、自己改革と他者連携に取り組む大学と、それらを進めない大学とで、**支援のメリハリ**をつける。
- ✓ 施策の検討に当たっては、モデルの横展開の発想にとどまらず、**地域に合わせたカスタマイズ型**の施策展開を重視する。

(※) 本取りまとめの前提

- ・「地方」や「地域」の範囲は、各地域の経済圏や住民の移動範囲に応じて設定。
- ・現在大学進学率が低い都道府県においては、今後大学進学率がある程度上昇していくことを想定。

地方大学に求められる役割

- ✓ 新産業の創出や既存産業等の発展を牽引する人材の養成（トランスファラブルスキル等の養成、社会人のリスキリングを含む）
- ✓ エッセンシャルワーカーの養成（医療・福祉・農業・建設等従事者、教員、公務員などを含む）
- ✓ 地域の産業や社会課題を踏まえた研究開発とその実装化
- ✓ 留学生の受入れと地方社会の国際化推進

地方大学の振興に向けた取組の方向性（全体像）

1



新産業創出とエッセンシャル ワーカーの育成を目指した 地方大学の振興

- # 新産業創出や既存産業等の発展を牽引する人材の養成
- # エッセンシャルワーカーの養成
- # 地域の産業や社会課題を踏まえた研究開発とその実装化
- # 地域課題等に応じた分野融合の取組の促進とこれを担う人材の育成
- # 地域で多様な学びが受けられる環境の構築

2



地域をフィールドとする 学びによる定着人口・ 関係人口の増加

- # 地域をフィールドとしたカリキュラム・インターンシップの充実
- # 都市部と地方の行き来を可能とするカリキュラムの充実
- # 高校の探究学習など初等中等教育との連携
- # 地域における複数大学等の連携による教育機能の共同化・高度化

3



高等教育機関をゲート ウェイとした地域の国際 化と外国人材の定着

- # 共生社会の実現に向けた地域を支えるグローバル人材の育成
- # 高度外国人材の受入れ促進・育成と国内定着、日本留学を通じた対日理解の促進
- # グローバル人材育成の基盤となる地方大学の国際化
- # 地方大学を国際交流の拠点とした地域の国際化の推進

4



地方大学の機能強化に向けたプラットフォームの構築 （産学官金等がともに取り組み体制の構築）

- # 自律的かつ持続可能な地域のプラットフォーム構築
- # 地域で多様な学びが受けられる環境の構築
- # 産官学金等連携による地域の活性化・都市と地方の交流促進



これらの方向性を踏まえ、今後の制度設計や予算要求等に反映